

# 残存歯データを入力する際の歯牙コードの標準化に関する考察

二家本 晃

日本歯科医療管理学会 情報管理委員会

## The consideration about standardizing the tooth code as concerns inputting tooth information

Nikamoto Akira

Japanese Society of Dental Practice Administration, Information Management Committee

In this report, I describe a variety of tooth information accumulated in my clinical information system and their manner of utilization. As for anticipated efficacy to confirm identification from dental record in a time of disaster, standardizations in this domain seemed to be urgent need in Japan. I would like to express status of information to shift the reader's vision from personal use to public use

Keywords: tooth code, residual teeth data, oral information, summarized tooth information

### 1. 災害時の生前情報

災害時における個人確定の際に必要な生前情報を考えるなら、まず残存歯データという硬組織情報の入力が最初の一步のように思える。一般的には開業歯科医の歯科情報のデジタルデータの集積場所はレセコンだと考える。しかし、レセコンでは健全歯の情報をうまく残せないものが多い。

### 2. 残存歯データの蓄積

全ての患者さんの歯周病を管理する、という目的で、カルテを補助するがレセコンとは独立したシステム (FileMaker Pro で作成) を2008年に立ち上げた。この中に患者さんの硬組織データ、すなわち残存歯データを入力するインターフェイスが含まれる。衛生士実地指導業務記録の管理という目的もあったので乳幼児から高齢者まで全ての患者さんの残存歯データが蓄積される結果となった。

### 3. 対象を全ての患者さんとするには

データ収集の対象を来院される全ての患者さんとするのが重要であるが、日々データを入力するのは多くの労力を要する。持続する為には、そのデータが日々の臨床に深く関与するものであり、活用できるものなければ、モチベーションはあがらないと考える。

残存歯の歯牙コードをイラスト化することで使用方法に広がり生まれる。しかし、歯牙コード入力の詳細すぎるのは現場の忙しさに合わないし、イラスト化が複雑になるのも避けたい。歯牙状態を表す上で、ある程度集約した歯牙情報のコード入力を許容し、最後は個々の歯の判別に至る方法を模索してきた。口腔内画像をひも付けることで、ある程度の個々の歯の判別まで可能と考えている。

### 4. データの標準化とインターフェイスを考える

自作のシステムでは、残存歯データ (5160データ)、口腔内画像 (22600カット)、歯周病に関する診査データ、所見等をマッチングさせたサブカルテ (1230名)、何種類かの提供文章および衛生士業務記録が関連づけて残されている。

自医院での活用に限ればシステムのいろいろな変更も受け入れやすいが、他と情報を交換する上ではそ

う簡単にはいかない。多くの人とデータを共有する上ではデータの標準化が必要と考えているが、過度な労力を強いらぬ方法はないか、インターフェイスも含め検討の過程を提示してみたい。

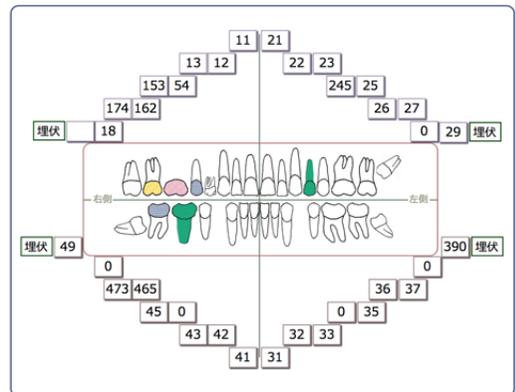


図1 歯牙コードと表示された歯牙イラストの例

歯牙コードと表示された歯牙イラストの例

### 参考書籍

[1] Niklaus P. Lang and Jan Lindhe Clinical Periodontology and Implant Dentistry Fifth Edition. UK: Blackwell Publishing company, 2008 573-586

[2] 西村早苗. アスキーDOTPC編集部. FileMaker Pro 10 実践テクニック. 株式会社アスキー・メディアワークス. 2009

